

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育相談(Educational Counseling)		授業コード	K001501
担当教員名	渡辺 亘		科目ナンバリングコード	K20108
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得				
教科書				
参考文献及び指定図書	教育臨床の実際 武内ほか編 ナカニシヤ出版			
関連科目	生徒指導、特別活動の研究			

授業の目的	教職科目の必修課程である。現代の教育現場において、教師は、単に授業をすればよいわけではなく、不登校、いじめ、非行など、さまざまな心理的問題や行動上の問題を抱えた児童・生徒と出会い、子どもを理解し、支援していかねばならない。これら、教師として教育相談を行うことのできる能力を育むことを主たる目標とする。□
授業の概要	前半は、総論を学ぶ。例えば、児童生徒の心理・行動・発達をどのように理解するか、何らかの問題や困りを抱える児童生徒に対する援助のあり方についてとりあげる。後半は、各論を学ぶ。例えば、具体的な問題(不登校、いじめ、学級崩壊、発達障害、非行)の理解と対応などについてとりあげる。□

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 教育相談とは何か 教育相談の定義や基本的視点、教師の活動における位置づけなどについて概説する。そのうえで、本講義のねらいについて説明する。	第1回～15回 自主的な予習・復習を期待する。
第2週： 発達段階と心理的特徴(児童期) 児童期の心理的特徴や生じやすい問題などについて、事例や素材などに基づき、具体的にとりあげる。	
第3週： 発達段階と心理的特徴(思春期) 思春期の心理的特徴や生じやすい問題などについて、事例や素材などに基づき、具体的にとりあげる。	
第4週： カウンセリングの理論 児童生徒や保護者に対する相談の基本となるカウンセリング的関わりについて、その理念と基本的理論についてとりあげる。	
第5週： カウンセリングの実際 カウンセリング的な関わりの実践について、映像や演習を通して具体的に学ぶ。	
第6週： カウンセリングの実際 カウンセリング的な関わりの実践について、映像や演習を通して具体的に学ぶ。	
第7週：	

<p>カウンセリングの実際 カウンセリング的な関わりの実践について、映像や演習を通して具体的に学ぶ。</p>		
<p>第8週： カウンセリングの実際 カウンセリング的な関わりの実践について、映像や演習を通して具体的に学ぶ。</p>		
<p>第9週： 不登校 今日の不登校の実態や不登校の理解と援助について、事例を交えながら具体的に学ぶ。また、連携と協働に基づいた援助のあり方について考える。</p>		
<p>第10週： いじめ 今日のいじめの実態やいじめの理解と援助について、事例を交えながら具体的に学ぶ。また、連携と協働に基づいた援助のあり方について考える。</p>		
<p>第11週： 学級崩壊 今日の学級崩壊の実態や学級崩壊の理解と援助について、事例を交えながら具体的に学ぶ。また、連携と協働に基づいた援助のあり方について考える。</p>		
<p>第12週： 発達障害 今日の発達障害(LD, ADHD等)の実態や発達障害の理解と援助について、事例を交えながら具体的に学ぶ。また、連携と協働に基づいた援助のあり方について考える。</p>		
<p>第13週： 連携による支援 学校内で関係教員等が連携して支援したり、学校外の関係機関と連携して支援したりすることについて学ぶ。また「チーム学校」の考え方についても紹介する。</p>		
<p>第14週： 学級作り 問題の早期解決及び予防のために重要な学級作りについて、構成的グループエンカウンター等の技法を、事例を交えながら具体的に学ぶ。</p>		
<p>第15週： 教師のメンタルヘルス 教育相談実践にとって重要なメンタルヘルスについて、その実態や具体的取り組みをとりあげる。</p>		
<p>第16週： 期末試験 期末試験</p>		
<p>授業の運営方法</p>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<p>地域志向科目</p>	該当しない	
<p>備考</p>		

<p>○単位を修得するために達成すべき到達目標</p>	
<p>【関心・意欲・態度】</p>	<p>積極的な姿勢でのぞむこと。発言をし、意見を積極的に表現すること。</p>
<p>【知識・理解】</p>	<p>理論・知識・技法を吸収・消化するとともに、それを具体的な実践の知に高めること。</p>
<p>【技能・表現・コミュニケーション】</p>	<p>意見交換しながら、共に理解し、協働することの大切さを身をもって理解すること。</p>
<p>【思考・判断・創造】</p>	<p>子どもの問題の内実を見きわめ、必要な具体策を考え抜くこと。教育相談を通して教師のあり方を</p>

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	15点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点		10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	15点		
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各回に、とりあげたテーマに関するミニレポートを課す。そのなかで、自分なりに理解したこと、まだ理解できていない／理解していく必要があると考えられることについて、吟味・整理し、言葉でまとめること。
発表・その他 (無形成果)	各回の授業時間に、質問や意見の述べる時間を設けるので、疑問点や自分なりの考え等を積極的に発表すること。